

福德岡ノ場の火山活動解説資料（令和3年11月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

8月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されるなど、活発な火山活動が継続しています。福德岡ノ場の周辺海域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石やペースサージ（横なぐりの噴煙）に警戒してください。噴火による浮遊物（軽石）にも注意が必要です。令和3年8月16日に噴火警報（周辺海域）を切り替えました。その後警報事項に変更はありません。

○ 活動概況（図2）

11日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、噴火は認められなかったものの、新島の南部には青白色の帯状の変色水域が、新島西側には濃黄緑色の変色水域が認められました。また、新島の北側の海面で円形状に湧出する気泡が認められました。これらのことから、活発な火山活動が継続していると考えられます。

気象衛星ひまわりの観測では、今期間、噴火活動の活発化や溶岩流出を示唆するような輝度温度¹⁾の変化は認められていません。

1) 輝度温度とは、気象衛星で観測された放射エネルギーを観測対象が黒体と仮定して変換した温度のことで、他の温度と区別するためこのように呼ばれています。

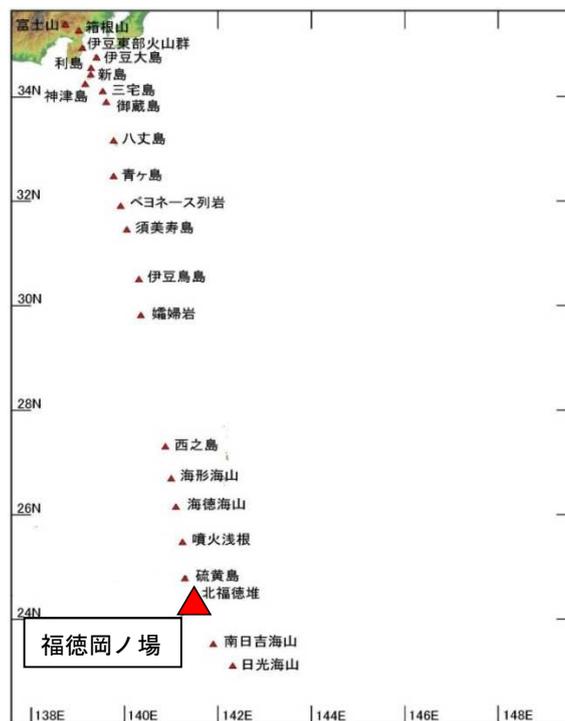


図1 福德岡ノ場 伊豆・小笠原諸島の活火山分布と福德岡ノ場
地図は、日本活火山総覧（第4版）から引用。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.ph）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和3年12月分）は令和4年1月12日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上自衛隊、海上保安庁及び第三管区海上保安本部のデータも利用して作成しています。

各種気象情報や衛星画像は福德岡ノ場ポータルサイトを御覧ください。

https://www.jma.go.jp/jma/menu/R03_karuishi-menu.html

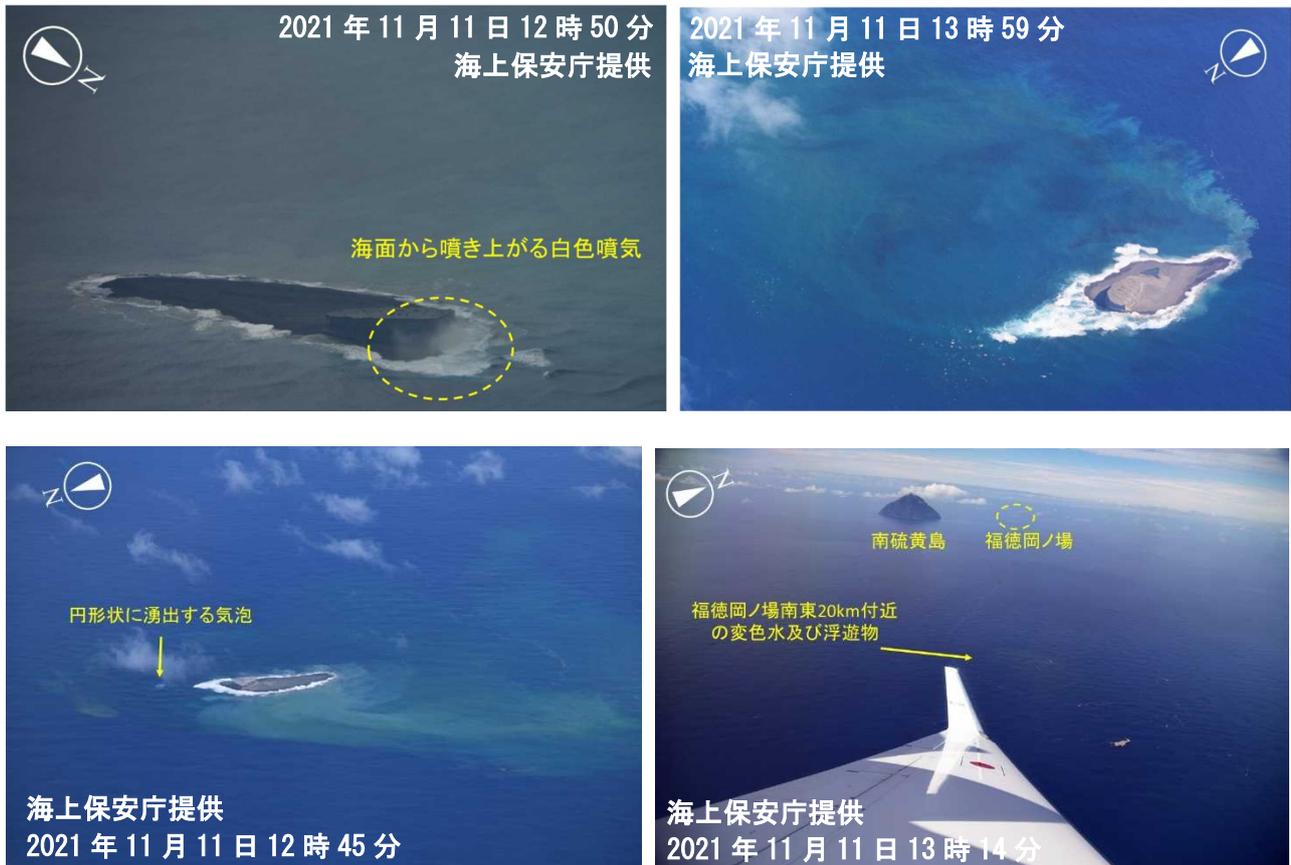


図2 福徳岡ノ場 新島及び周辺海域の状況（2021年11月11日）

- ・11日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、噴火は認められなかったものの、新島の北端から噴き上がる白色噴気を確認しました（左上図）。
- ・新島の台地は前回（10月12日）の調査と比較すると縮小していました（右上図）。
- ・新島の南部には青白色の帯状の変色水域が（右上図）、新島西側には濃黄緑色の変色水域が認められました（左下図）。
- ・新島の北側の海面で円形状に湧出する気泡が認められました（左下図）。
- ・福徳岡ノ場の南東約20km付近にて直径約2kmの黄緑色の変色水域及び軽石と思われる浮遊物が認められました（右下図）。